

1. 2 微生物部

令和3年度は、感染症発生動向調査事業（患者発生情報、病原体情報）、試験検査（感染症、食中毒、感染症発生動向調査に関する病原体検査等）を行った。

調査研究は、「行政検査陰性検体に係る病原体検索」を行った。

試験検査業務における検体数及び項目数について、表1に示す。

1. 2. 1 感染症発生動向調査事業

(1) 患者発生情報

一類感染症から五類感染症までの全疾病について、発生状況に関する情報を迅速に収集・解析し、各関係機関及び県民に、鹿児島県感染症情報（週報、月報、年報）として提供することにより、感染症の予防及びまん延の防止に努めた。

(2) 病原体情報

県内の指定提出機関（31か所）から提供された検体について、対象疾患別に病原性細菌並びにウイルスの検索を行った（表2）。

表1 試験検査実施状況

	行政依頼		一般依頼		調査研究		合計	
	検体数	項目数	検体数	項目数	検体数	項目数	検体数	項目数
細菌								
感染症に関する検査	190	190					190	190
食中毒に関する検査	123	1599					123	1599
感染症発生動向調査事業	10	130					10	130
ウイルス								
感染症に関する検査	9684	9740			72	346	9756	10086
食中毒に関する検査	37	213					37	213
感染症発生動向調査事業	33	324					33	324
感染症流行予測調査事業	27	27					27	27
HIV検査	2	5					2	5
リケッチア								
つつかが虫病等検査			326	978	326	652	652	1630
その他リケッチア検査			326	326			326	326
寄生虫・衛生害虫等	5	5					5	5
合計	10111	12233	652	1304	398	998	11161	14535

1. 2. 2 試験検査

(1) 細菌検査

細菌検査の実施状況について、表3に示す。

1) 感染症に関する検査（鹿児島市を除く）

三類感染症関連の行政依頼検査は、腸管出血性大腸菌感染症患者発生に伴う検査を行った。検査の内訳は、O157：1事例57検体（便57件）、O26：1事例15検体（便15件）、O111：1事例70検体（便70件）、O145：1事例6検体（便6件）、O165：1事例1検体（便1件）、O不明：1事例3検体（便3件）であった。

五類感染症関連の検査は、カルバペネム耐性腸内細菌感染症等の菌株19件であった。

その他の細菌検査は、温泉水のレジオネラ検査6件と水道水の従属栄養細菌9件、医療機器の無菌試験2件を行った。

2) 食中毒に関する検査（鹿児島市を除く）

食中毒疑い事例として8件の行政依頼があり、123検体の検査を行った（表3）。

3) 感染症発生動向調査事業

病原体定点医療機関から提出された検体について検

査を実施した（表2）。

(2) ウイルス検査

1) 感染症に関する検査

保健所からの行政依頼の実施状況について、表5に示す。

2) 食中毒に関する検査

令和3年度の鹿児島市を除く鹿児島県内の食中毒発生状況は表4のとおりであるが、そのうちウイルス性食中毒疑いとして搬入された検体37件の検査を行った。

3) 感染症発生動向調査事業

病原体定点医療機関から提出された検体について検査を実施した（表2）。

4) 感染症流行予測調査事業

40～59歳の男性を対象に、風しんの感受性調査（追加的対策の効果検証分）を行った（表6）。

5) HIV検査

鹿児島県内14保健所におけるHIV検査受検者のうち、迅速検査で判定保留となり、確認検査依頼があった2件について検査を行い、1件陽性であった。

表2 感染症発生動向調査事業検査結果

	検出病原体	令和3年										令和4年			合計		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
		上段：検査件数（陽性件数）／下段：検体数（陽性数）															
陽性検体の種類*1と検出病原体数*2																	
インフルエンザ							1(0)										1(0)
							1(0)										1(0)
咽頭結膜熱					1(0)	1(1)											2(1)
	アデノウイルス 2				1(0)	1(1)											2(1)
						咽 1											咽 1
感染性胃腸炎		3(1)			1(0)						3(1)	1(0)			2(0)		10(2)
	腸管病原性大腸菌 (EPEC)	3(1)			1(0)						3(1)	1(0)			2(0)		10(2)
	<i>Campylobacter jejuni</i>	便 1															便 1
											便 1						便 1
手足口病										1(1)	1(1)	1(0)					3(2)
	コクサッキーウイルス A6									1(1)	1(1)	1(0)					3(2)
										咽 1	咽 1						咽 2
伝染性紅斑					1(0)												1(0)
					1(0)												1(0)
無菌性髄膜炎		1(0)		2(0)	1(1)						2(1)						6(2)
	水痘・帯状疱疹ウイルス	2(0)		3(0)	1(1)						1(1)						7(2)
	エンテロウイルス NT				髄 1						髄 1						髄 1
	エコーウイルス 6										便 1						便 1
ヘルパンギーナ						1(1)									1(1)		2(2)
	コクサッキーウイルス A2					1(1)									1(1)		2(2)
	ヒトパラインフルエンザウイルス 3					咽 1											咽 1
	エンテロウイルス					咽 1									咽 1		咽 1
RS ウイルス						2(2)											2(2)
	アデノウイルス					2(2)											2(2)
						咽 2											咽 2

*1 咽：咽頭ぬぐい液，髄：髄液。

*2 病原体は同一検体より複数検出されることがあるため、必ずしも陽性検体数とは一致しない。

(注) 突発性発疹，A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎，水痘，流行性耳下腺炎，急性出血性結膜炎，流行性角結膜炎，細菌性髄膜炎，感染性胃腸炎（ロタウイルス）は検体提出なし。

(3) リケッチア検査

1) 依頼検査

つつが虫病予防対策事業による抗体検査においては、326件の検査依頼があり、そのうちペア血清で検査を行ったものが76件であった。血清学的につつが虫の抗体価陽性が73件、日本紅斑熱の抗体価陽性が35件、ペア血清で陰性のものが28件であった。

(4) 寄生虫・衛生害虫等検査

1) クリプトスポリジウム等検査

「水道におけるクリプトスポリジウム等対策指針」及び「飲料水におけるクリプトスポリジウム等の検査結果のクロスチェック実施要領」(平成19年4月、厚生労働省)に基づき、加圧ろ過-アセトン溶解法にて、水道原水5件(浅井戸2件・深井戸3件)について検査を実施し、陰性であった。

2) その他の検査

県内医療機関よりライム病の検査依頼が1件あり、国立感染症研究所へ行政検査の依頼を行った。その結果、陰性であった。

1. 2. 3 精度管理

(1) 細菌検査

(一財)食品薬品安全センター主催の外部精度管理(一般細菌数測定検査)、健康安全・危機管理対策総合研究事業(レジオネラ)、パルスネット精度管理に参加した。

(2) ウイルス検査

令和3年度厚生労働省外部精度管理事務局(新型コロナウイルスの次世代シーケンシングによる遺伝子の解読・解析、新型コロナウイルスの核酸検出検査)に参加した。

表3 細菌検査の実施状況(鹿児島市を除く)

区 分		菌株	便	食品	拭き取り	水	その他	計
行政 依 頼	三類感染症関連		152					152
	五類感染症関連	19						19
	その他の細菌					15	2	17
	計	19	152			15	2	188
	細菌性食中毒検査		88	24	11			123
	感染症発生動向調査		10					10
合 計								321

表4 食中毒発生状況(鹿児島市を除く)

発生 月日	発生地	摂食 者数	患者 数	死者 数	原因食品	病因物質	原因施設
令3. 4. 4	奄美市	不明	1	0	不明	アニサキス	不明
令3. 4. 11	鹿屋市	32	11	0	不明	カンピロバクター	不明
令3. 10. 12	鹿屋市	13	6	0	10/10夜に提供された食事	カンピロバクター	飲食店
令3. 11. 6	薩摩川内市	28	4	0	旅館で提供された食事	カンピロバクター	飲食店 (旅館)
令4. 1. 12	霧島市	1943	143	0	ブリの照焼き (1/12の学校給食)	ヒスタミン	給食施設
合計5件		2016	165	0			
前年度計8件		18	14	0			

(注)「発生地」は、原則として「原因施設所在地」を掲載。ただし、原因施設が不明の場合は、主な患者の発生場所を掲載。

(集計 生活衛生課)

表5 ウイルス行政依頼検査件数

疾患名	依頼数 (陽性数)	検体数 (陽性数)	検出ウイルス (検体数)
重症熱性血小板減少症候群	32(5)	32(5)	SFTS ウイルス(5)
急性脳炎	17(9)	69(13)	ヒトパラインフルエンザウイルス 3(1), ヒトヘルペスウイルス 6(4) ヒトヘルペスウイルス 6B(1), ヒトヘルペスウイルス 7(1) ライノウイルス(2)
風しん	2(0)	6(0)	
鳥インフルエンザ	1(0)	1(0)	
新型コロナウイルス感染症	9632(1775)	9632(1775)	SARS-CoV-2(1775)

(注) 病原体は同一検体より複数検出されることがあるため、必ずしも陽性検体数とは一致しない。

(注) 新型コロナウイルス感染症の依頼数・検体数は変異株スクリーニング検査を除く。

表6 風疹HI抗体保有状況

	HI 抗体価									合計
	8倍未満	8倍	16倍	32倍	64倍	128倍	256倍	512倍	1024倍以上	
40～49歳	0	0	0	1	1	4	1	1	1	9
50～59歳	3	0	0	4	2	5	2	2	0	18